



令和3年度

益田市の教育の概要

益田市教育委員会

目 次

I 益田市「教育に関する大綱」	1
II 令和3年度 教育行政の取組方針	2

資料編 I（基本データ）

1 益田市教育委員会各種委員会	9
（1）益田市教育委員会の構成	
（2）総合教育会議の状況	
（3）教育に関し、市長又は教育委員会が設置する審議会等	
（4）教育審議会の状況	
2 令和3年度 益田市小中学校一覧	11
3 小中学校位置図	12
4 学校別学年別学級数・児童生徒数	12
5 令和3年度 益田市一般会計予算額（教育費）	13
6 益田市教育委員会事務局組織体制	15

資料編 II（施策・取組状況のデータ）

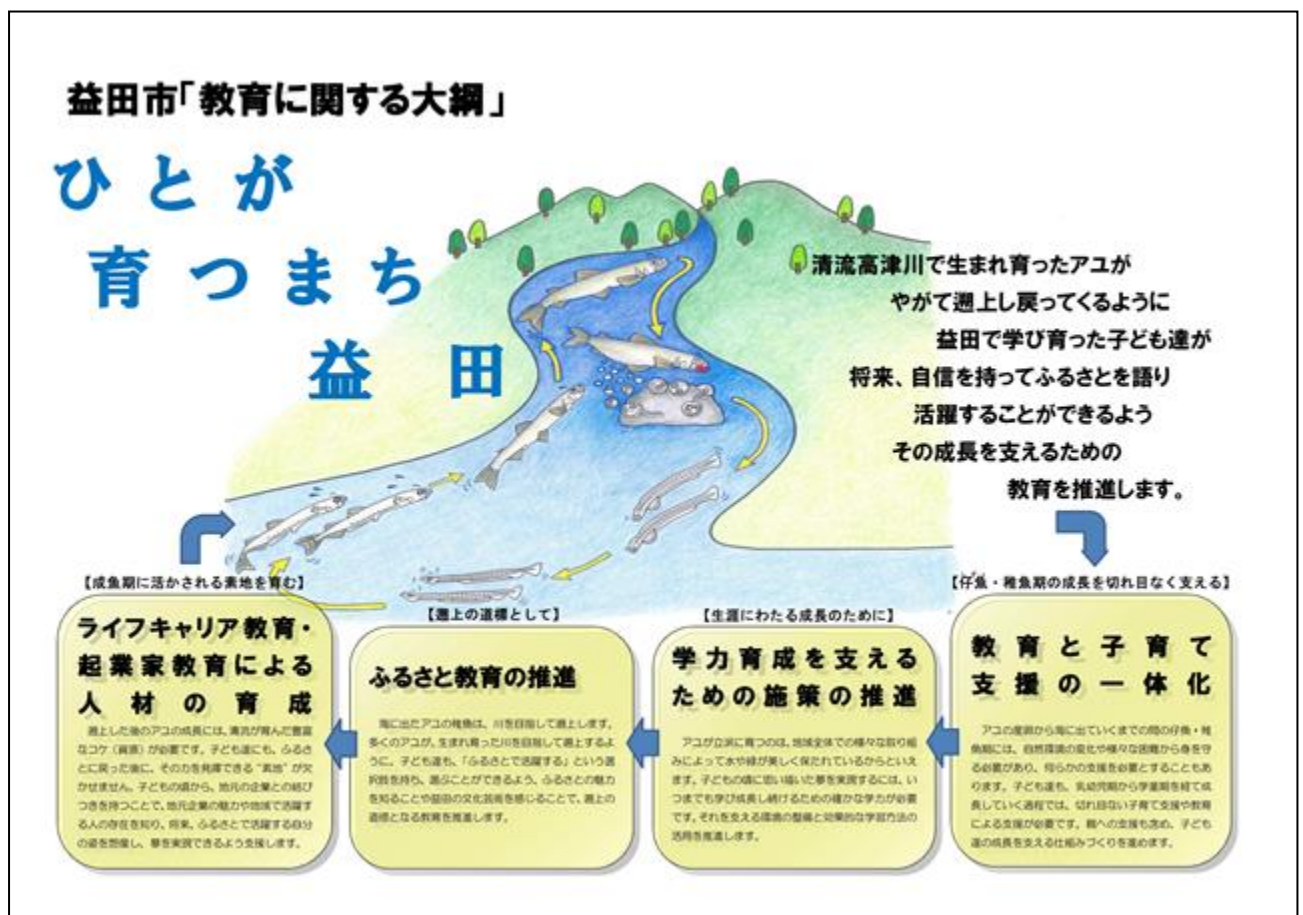
1 益田市奨学金事業の概要	17
2 益田市の児童生徒数・学校規模等について	18
（1）児童生徒数の推移	
（2）学校数の推移	
（3）特別支援学級及び在籍児童生徒の推移	
（4）学校施設の整備の状況	
3 一般会計に占める教育費の現状（他市との比較）について	20
4 令和2年度 島根県学力調査結果について	21
（1）教科に関する調査の結果から	
（2）生活・学習意識調査及び質問紙調査の結果から	
5 教育設備等について	22
（1）学校における ICT 環境の整備	
（2）益田市の教員の ICT 活用状況	
（3）学校図書館の図書整備状況	
6 就学援助について	23
（1）準要保護児童生徒の認定状況の推移	
（2）特別支援教育就学奨励児童生徒の認定状況の推移	
（3）特別支援教育支援員等の配置状況	

7	益田市立図書館について	25
	(1) 令和2年度 益田市立図書館蔵書等利用状況	
	(2) 令和2年度 資料等整備状況	
8	益田市子ども・若者支援センターについて	26
	(1) 令和2年度 相談関係受理等の状況	
	(2) 令和2年度 相談等受理実人数	
	(3) 令和2年度 相談関係電話件数	
	(4) 令和2年度 開所日数及び平均受理数	
9	放課後子ども教室について	27
10	公民館活動実施状況について	28
11	スポーツ活動の推進について	29
	(1) 「する」スポーツの充実	
	(2) 「みる」スポーツの充実	
	(3) 「ささえる」スポーツの充実	
	(4) 「地域社会」と連携	
12	文化芸術の振興について	31
	(1) 協議会、実行委員会	
	(2) 令和2年度 文化施設の入館者数	
	(3) 令和2年度 偉人顕彰、後継者育成	
13	ライフキャリア教育の取組状況について	33
	(1) 「夢の教室」の開催	
	(2) 「益田版カタリ場」の開催	
	(3) 「新・職場体験」の実施	
14	歴史・文化財等の普及啓発について	34
	(1) 益田市指定文化財一覧表	
	(2) 史跡公有化の実績	
	(3) 遺跡見学会等の開催	
	(4) 学校との連携	
	(5) 地域との連携	
15	人権・同和教育の研修実績について	37
	(1) 教職員向研修	
	(2) 人権・同和教育推進協議会委員、事務局員向研修	

I 益田市「教育に関する大綱」

「ひとが育つまち益田」の実現を目指し、次世代を担う子ども達が安全で安心して学習できる教育環境の整備と、益田で培った才能を益田で発揮できる環境の整備に向け、市長と教育委員会が連携し、早期かつ重点的に取り組む施策の指針として、平成 27 年 6 月 1 日に益田市「教育に関する大綱」を策定しました。その後平成 27 年 12 月に「未来を担うひとづくり計画」、さらに平成 28 年 3 月には「益田市ひとづくり協働構想」を策定しました。これらとの整合性を図り、構想に掲げる施策を市長部局と教育委員会がより連携を意識することにより、その実現を図るため、平成 29 年 7 月に見直しを行いました。

重点項目	方 針
教育と子育て支援の一体化	就学前と就学後、学校での学習時間と放課後、夏休みなどの長期休業中と通常の学期中など、子ども達を支える担い手と公的部門が現状では分化しています。それらの一本化を図り、同じ目的意識のもとで、学校施設を有効に活用し子ども達を育む機能を高めます。
学力育成を支えるための施策の推進	I C Tや学校図書館を活用した教育等により、読解力や学び方、情報活用能力等を身に付けるとともに、「分かる授業」や「家庭学習の充実」等の取り組みにより、学習習慣の醸成や学びに向かう力を育成し、子ども達が将来への視野を広げ、自らの可能性を広げることのできる教育を推進します。また、子ども達が安全に安心して学ぶための教育環境を整備します。
ふるさと教育の推進	ふるさと益田に深い愛着を持ち、このまちで培った才能を内外で発揮できる子ども達を育てるとともに、特に、益田で活躍したいと強く意識できるよう子ども達の成長を支えます。また、身近に豊かな文化芸術にふれることで、より郷土愛と人間性を育む機会を充実させます。
ライフキャリア教育・起業家教育による人材の育成	職業に関する教育や職場体験により、地元の企業や地元で活躍している経営者や事業家に接することや、益田でいきいきとくらすロールモデルと対話することを通じて、「この地で活躍する自分の将来像」を思い描けるように、将来の益田を担うことのできる人材育成を推進します。



Ⅱ 令和3年度 教育行政の取組方針

はじめに

世界中にパンデミックを起こしている新型コロナウイルスは、人類史上に残る歴史的災禍となり、私たちが長きにわたって築きあげてきた日常の生活を一変させ、今もなお終息の兆しが見えません。

この災禍は、教育現場においても、児童生徒の学びの場の確保や継続の重要性を浮き彫りにしました。そして、様々な学校行事や部活動、社会教育活動にも大きな制約をもたらしています。その上、感染された方やその方の家族の皆さんをはじめとした周囲の方々、さらには、医療関係者に対する誹謗中傷も顕在化しており、私たち一人一人の心のあり方が問われています。

こうした新型コロナウイルスによる影響に加え、人口減少、少子高齢、グローバル社会の進展や絶え間ない技術革新等は、我が国の社会構造や雇用環境に急速な変化をもたらしています。そのような情勢の中であって、SDGs に表されているように「持続可能な開発目標」を持って、地球的視野に立って物事を考えていくことが求められています。

特に、教育においては、ESD と呼ばれる「持続可能な社会づくりの担い手を育む教育」が必要とされています。具体的には、コンピュータや機械では決して置き換えることができない、他者を思いやる心や志、創造性を兼ね備えた人材の育成、自らの個性を発揮し、未来を切り拓き、生涯にわたって学び続ける人材の育成、多様な人々と協働し、社会に貢献しようとする人材の育成であります。

さらに、令和2年度において、国は「Society5.0時代」を生き抜く人材育成の必要性に加え、非常時においても学びを止めないためにGIGAスクール構想を前倒しし、「情報活用能力に長けた、よりグローバルな人材育成」や「一人も取り残さない個別最適化を目指した学びへ」との方向性を出しました。

益田市教育委員会では、教育大綱に掲げている「ひとが育つまち益田」、教育ビジョンに掲げている「ふるさとを愛情を持って語り地球的視野に立って社会貢献する自立した子ども」の育成を目指し、様々な取組を行ってまいりました。

益田市では、「益田市ひとづくり協働構想」に基づき、「ひとが育つまち益田」の実現を目指し、産業の担い手、地域づくりの担い手、未来の担い手を一体的に育成する取組を行っています。その中でも「未来のひとづくり」については、教育の果たす役割は非常に大きいものがあります。

これまで益田市教育委員会では、「益田版カタリ場」等を通し、地域の人との関わりの中で子どもたちは「生き方」を学んだり、自ら地域の一員として関わったりするなど、未来を切り拓いていくための「生きる力」の育成のために、ライフキャリア教育を中心に取り組んできました。こうした取組の中で、小学校期の「地域について知る活動」、中学校期での「地域のための貢献活動」、高校生期での「地域とともに、未来を描いたり結んだりする活動」については、着実に成果を上げてきています。

また、次世代を担う子どもたちが、安全で安心して学べる学習環境の整備と、益田で培った才能を益田で発揮できる環境の整備に市長部局とともに取り組んでまいります。

そして、中学校区での一体的なふるさと教育の取組は、子どもたちがふるさとの持つ良さ、それは豊かな自然であり、歴史・文化、産業などのすばらしさに触れ、人に触れ、学ぶものがあります。益田市には、そうしたすばらしい「ひと・もの・こと」があることに誇りを持って学んでいくことが重要であると考えます。

令和2年度は、全国に誇る益田市の歴史文化が「中世日本の傑作 益田を味わう一地方の時代に輝き再び」のストーリーとして、日本遺産の認定を受け、また、「雪舟回廊」が国土交通省のガーデンツーリズムに登録されるなど、大きな成果を得ました。今後は、これらを活かしたまちづくりを、市長部局とともに連携して進めてまいります。

これらのことについて、これまでの取組を見直しながら一層推進してまいりたいと思います。

一方、「学び続ける子どもの育成」の視点に立ち、児童生徒が自ら主体的に「なぜ」を追求し、他者との対話を通して課題解決していく「力」、そして、社会の変化に対応し、よりよい社会を作ろうとする「夢」や「志」という自分軸を持った人間力の育成をさらに充実させてまいります。

そのためにも、保幼こ・小・中・高までが連携し、益田市の子どもの「目指す18歳像」を見据えた一貫した教育を進めていかななくてはなりません。基盤となる基礎的な知識及び技能の定着はもちろん大切ですが、益田市の「ひと・もの・こと」を活かしながら地域の子どものとして、そして、地球的視野に立って物事を考えることができる「生きる力」を育てていくことが必要です。

引き続き、益田市の全ての小中学校において、子どもたち一人一人の学びを大切にしながら「わかる喜び・できた喜びのある授業」、「みんなと学ぶ楽しさのある授業」、そして、「子どもたち自らが探求していこうとする授業」の実現に向けて取り組んでまいります。

また、様々な文化や多様性に満ちた社会、そして、変化の激しい時代においても基盤とな

るのは、ともに支え合い、人を大切にする心です。益田市に暮らす全ての方々の人権を保障し、誰もが幸せな地域社会を創り上げなければなりません。

特に、学校教育においては、地域を担う益田の子どもたちが、将来をたくましく切り拓いていくために、その基盤となる人権・同和教育の充実を一層図ってまいります。地域社会においても、大人がその思考や行動の基準として、他者を認め合い、より公平で公正な社会の実現を目指して行動する姿を手本として、子どもたちの人権意識は高まり、市民一人一人の幸せにつながる「人権のまちづくり」が達成できます。あらゆる年代層や様々な場で、人を大切にする心が一層醸成されることを目指して、しっかりと取り組んでいきたいと考えます。

地域を担う益田の子どもたちの「確かな学力」の定着と「豊かな心」の醸成、「健やかな身体」の育成を担う学校教育を地域が支えること、市民一人一人がふるさとを愛し、社会において主体的に生きていく力を培っていくためにも、生涯にわたって学び続ける意欲を持った人材育成が必要であります。そうした教育の一層の振興と充実に向けて教育行政を推進してまいります。

（令和3年度に取り組む主要な施策）

令和3年度は、これまでの取組の充実を図りつつ、新たな取組にも着手いたします。令和3年度に取り組む具体的な教育行政の取組内容について申し上げます。

1 学び続ける子どもの育成について

1点目は、学び続ける子どもの育成についてです。持続可能な社会の担い手を育成するためには、「学び続ける意欲とその力」をもった人づくりが重要です。それは、自分に必要な新しい知識やスキルは何かを捉え、継続的・計画的、そして、戦略的に学習し、習得し続ける意欲と力です。主体的・対話的で深い学びを全ての授業で展開することで、学習の主体者としての意欲の醸成を図るとともに、益田市教育委員会として、数年来大切にしてきた「対話」とおしながら探求的な学びによって、より深い学びへとつなげ、学び続ける力の育成や学力の定着を図ります。

その中で、次の3つの側面から環境を整え、未来につながる益田市の社会づくりの担い手を育成するESDを目指したいと考えます。

まずは、学習指導要領にもある「社会に開かれた教育課程」をイメージした横軸の拡大です。そのためには、国のGIGAスクール構想を活用した、1人1台端末による「新しい学びのカタチ」を実施していきます。学校での学びを家庭での学びにつなげ、さらに、地域での学びにもつなげ、様々な課題解決や学びの記録のための身近なツールとしての活用を進めます。学校をはじめとする地域をつなぐ横の広がりを生む手段として活用を進めることで、志や夢の実現に向かっていく意欲を湧き立たせ、現在と未来をつなぐツールとしていきたいと考えます。

さらには、情報社会のメリットを生かし、自ら学びのフィールドを広げ、地球規模の学びへつなげるような人材の育成を目指します。併せて、今後さらに加速することが予想されるSociety5.0の時代を生き抜く子どもたちのために、積極的に国や民間企業との連携を進め、ICT活用能力にたけた人材育成を目指して、情報教育の質の向上を図ります。

次は、益田市の未来に向けての人材育成という視点からの各年代を貫く縦軸の強化です。これからの社会は多様性と複線化にあふれています。現在進めている益田市版保幼小接続カリキュラムによる保幼小の連携、外国語教育を中心とした小中一貫教育、そして、多様化と複

線化に対応し、より手厚い中等教育を目指す益田市型中高一貫教育などを一層推し進めることで、各年代を縦に貫く益田市らしさのある教育の実現が図られると考えます。

そのためには、益田市の子どもの「目指す18歳像」の共有が必要となってきます。益田市未来の担い手コンソーシアム等において十分な協議を図るとともに、教育関係者だけでなく市民や識見者との意見交換等も実現に向けての有効な方法と考えています。

そして、横軸と縦軸の中心の核となる部分の成長を支えるものとして、一人一人の伸びをものさしとした益田市定着度調査の活用を行います。令和2年度は、導入初年度ということもあり基礎データの収集にとどまりましたが、令和3年度は、いよいよ一人一人の伸びを確認し、分析を行い、そして、より一人一人に寄り添った指導の充実を図ります。子どもたちは、自分の伸びが見えることで自信を深め、意欲を高め、それらが一層の成果につながり、成長の加速へとつながることによって、学び続ける子どもの育成を図ることができると考えます。

2 未来を担うひとづくりの推進について

2点目に、未来を担うひとづくりについてです。ふるさと教育を行うことにより、多くの知識を身につけると同時に地域に愛着と誇りを持つ子どもたちを育成し、学習した知識をもとに市内外において活躍できる人材を増やすことが必要とされ、一定の成果もあがっています。

キャリア教育に関しては、各種団体及び中間支援組織等と官民連携によりライフキャリア教育を更に推進してまいります。そのコンテンツとして継続している「夢の教室」、「益田版カタリ場」、「新・職場体験」は既に市内で浸透しており、市内全ての小中高等学校及び特別支援学校で実施しています。特に、「益田版カタリ場」は農業者や市議会議員の皆様とも協働して実施されるなど、広がりを見せています。

実施にあたっては、子どもたちに夢を持つ大切さや夢の実現に向けて必要なことを考えてもらうほか、現役高校生や社会人が改めて自分を見つめ直す機会ともなり、企業人としての学習の場としても活用されています。

このようなライフキャリア教育に対しては、今以上に幅広い年代や職種の方に関わっていただける取組を進めてまいります。

また、各地区公民館では「公民館のあり方についての指針」に基づき、世代をつなぎ、ひとづくりの拠点となる活動を推進いたします。さらに、「つろうて子育て協議会」と連携し、地域と学校が一体となって、未来の地域づくりの担い手である子どもたちを育てる取組を実施します。

なお、高校生とともに活動する事業にも取り組み、若い人たちの発想を取り入れるなど、幅広い年代の方が集う公民館となるよう、活性化を図ることも必要になります。

さらに、公民館が地域づくりやひとづくりの拠点となるためには、公民館職員自身がスキルを身に付ける必要があります。そのため、他地域との交流や情報交換を活発に行うとともに、様々な研修会等へ積極的に参加することが必要であり、特に、社会教育主事の資格取得を奨励するなど、職員の資質向上に取り組みます。

また、本市には、豊かな自然や産業、そして、地域の成り立ちや歩みを物語る歴史文化が数多く存在します。そのような恵まれた資源をふるさと教育に活用するため、市内の文化施設と連携し、様々な教育機会の創出に努めてまいります。

さらに、「芸術文化とふれあう協議会」との協働により、島根県芸術文化センター「グラントワ」を活用した、子どもから大人までの様々な市民活動づくりを創出し、地域活動のさらな

る推進を図ります。

3 益田市歴史文化基本構想の推進について

3点目に、益田市歴史文化基本構想の推進についてです。本市の豊かな歴史文化は、全国に誇ることができる大きな財産です。益田市及び益田市教育委員会では、平成30年度に、文化財の保護と活用のマスタープランである「歴史文化基本構想」を策定し、令和元年度には、そのアクションプランである「文化財保存活用地域計画」を策定して、国内第1号の認定を受けました。

また、令和2年度には、これらの構想や計画から中世益田の要素を抽出して再構築したストーリー、「中世日本の傑作 益田を味わう—地方の時代に輝き再び—」が日本遺産に認定されました。

今後は、この文化財保存活用地域計画に基づいて、地域の歴史文化の魅力や価値の積極的な普及啓発を図り、地域に対する誇りの向上に結び付けるための取組を継続して進めます。

次に、歴史を活かしたまちづくりの象徴である史跡益田氏城館跡については、「整備基本計画」に掲げた将来像の実現に向けて、段階的な整備活用を進めていきます。

また、その他の文化財についても、適切な保存活用と普及啓発を図り、市民の理解と関心が高まるよう努めてまいります。なかでも、史跡スクモ塚古墳については、その内容解明のための発掘調査を行い、古墳の形状や規模の特定に努め、今後の保存活用を図ることとします。

さらに、益田市歴史文化研究センターでは、日本の中世史研究において益田に対する注目度が一層高まる中で、令和2年度には島根県古代文化センターの専門研究職員の駐在が更新されました。今後も県と密接に連携するとともに、全国の研究者や東京大学史料編纂所、国立歴史民俗博物館などの協力のもと、引き続き中世の石見に関する研究に取り組み、その成果を最新の学術情報として全国に発信してまいります。

4 安全で安心な教育環境の整備について

4点目に、安全で安心な教育環境の整備についてです。学校施設は、学校教育を行う場であるとともに、地域交流を始めとした各種活動の拠点、あるいは防災上の拠点としても位置付けられ、高い公共機能を有する場であることが求められます。この視点を持った上で、施設の耐震性や衛生面などハード面の整備を進めるとともに、学校で学びを深める児童生徒に対するソフト面での取組の充実も進め、安全で安心な教育環境を整えていく必要があります。

まずは、ハード面についてです。令和3年度においては、中西小学校屋外運動場の整備に着手します。また、真砂小学校の建替えにあたっては、庁内関係各課及び地域自治組織「ときめきの里真砂」との協議、連携をもとに地域コミュニティの核となり、住民が生涯にわたって集うことのできる多様性の高い拠点施設と位置付けた取組を進めます。

さらに、令和3年4月から始める匹見小学校と匹見中学校の同一校舎運営に伴って、施設の改修に取り組むとともに、社会教育コーディネーターを配置し、地域と連携しながら活動を行い、児童生徒が安心して学ぶことのできる環境を整えます。

次に、ソフト面での教育環境の充実についてです。様々な理由により、学校に登校しづらい児童生徒や人間関係の構築がうまくいかなかったり、家族との関係に悩んだりする子どももいます。こうした課題の解決には、時間がかかっても地道な基盤としての支援体制の構築が支えになると考えます。まずは、安全で安心して過ごせる環境として、いじめ未然防止の取組を全

での小中学校で行います。併せて、相談支援体制として、スクールソーシャルワーカーや子どもと親の相談員、スクールカウンセラーなどの専門人材の活動の充実を進めるとともに、「子ども若者支援センター」を中心としながら、子どもたちの居場所の確保や支援の充実を続けていきます。

最後に、学校給食に関わる点についてです。学校給食では、「ふるさと教育」の一環である地元の農林水産物を利用した「地産地消」に取り組むとともに、併せて生産者の皆様と児童生徒との交流の場づくりも進めてまいります。

その上で、安全で安心な給食の提供に向け、食材の搬入時や調理、配送、学校内での配膳時など、あらゆる場面における異物混入の可能性の排除のため、学校給食に関わる全ての関係者間において、リスク回避に対する共通認識を持つための取組も進めてまいります。

以上、教育行政を進めるにあたっての基本的な取組方針と具体的な内容を申し上げました。益田市における教育の状況を市民の皆様と共有し、多様なご意見をいただき、関係機関と連携を強化して取り組んでまいります。

今後とも、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(令和3年3月議会定例会において教育長から表明)

資料編 I（基本データ）

1 益田市教育委員会各種委員会

(1) 益田市教育委員会の構成

令和3年4月1日現在

氏 名	役 職	職 業	初任日	任 期
高市 和則	教 育 長	-	令和 3 年 4 月 1 日	令和 6 年 3 月 3 1 日
村上 三恵子	教 育 長 職務代理	無 職	平成 2 9 年 1 2 月 2 6 日	令和 3 年 1 2 月 2 5 日
中野 純	委 員	会 社 員	平成 2 8 年 4 月 1 日	令和 4 年 1 2 月 2 5 日
梅津 富美子	委 員	団体職員	令和 元年 1 2 月 2 5 日	令和 5 年 1 2 月 2 5 日
大庭 隆志	委 員	無 職	令和 2 年 1 2 月 2 6 日	令和 6 年 1 2 月 2 5 日

(2) 総合教育会議の状況

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4の規定に基づいて市長が設置する総合教育会議では、市長と教育委員会が執行機関同士、対等な立場で協議・検討する場として位置づけられています。総合教育会議では、主に次の事項を協議することと規定されています。

① 協議・調整すべき事項

(ア) 教育に関する大綱の策定

(イ) 教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき措置

(ウ) 児童・生徒等の生命または身体に現に被害が生じ、又はまさに被害が生ずるおそれがあると見込まれる場合等の緊急の場合に講ずべき措置

② 令和2年度 益田市総合教育会議開催状況

日 時	場 所	案 件
令和2年5月14日	第 1 会 議 室	5月18日からの普通登校の再開について
令和2年6月12日	大 会 議 室	益田市が目指す近未来に向かったの情報化ビジョンについて
令和2年8月24日	市民学習センター 202号室	益田市における中等教育について

(3) 教育に関し、市長又は教育委員会が設置する審議会等

令和3年4月1日現在

名 称	設置根拠法令	委員数	実人数	任命権者
益田市教育審議会	益田市教育審議会条例	20人以内	10人	教育委員会
益田市奨学金貸付審議会	益田市奨学金貸付条例	10人以内	8人	市 長
益田市教育委員会外部評価委員会	益田市教育委員会外部評価委員会 設置規則	5人以内	4人	教育委員会
益田市立学校整備計画審議会	益田市立学校整備計画審議会規則	15人以内	—	教育委員会
益田市立学校給食共同調理場運営委員会	益田市立学校給食共同調理場設置 及び管理に関する条例	15人以内	13人	教育委員会

益田市教育支援委員会	益田市教育支援委員会条例	17 人以内	14 人	教育委員会
益田市特別支援教育連携協議会	益田市特別支援連携協議会設置要綱	16 人	15 人	教育委員会
益田市いじめ問題対策連絡協議会	益田市いじめ問題対策連絡協議会等設置条例	15 人以内	15 人	市 長
食物アレルギー対応検討委員会	食物アレルギー対応検討委員会設置要綱	8 人以内	8 人	教育委員会
益田市スポーツ推進審議会	益田市スポーツ推進審議会条例	10 人以内	9 人	教育委員会
図書館協議会	益田市図書館設置条例	10 人以内	6 人	教育委員会
社会教育委員	益田市社会教育委員条例	15 人	15 人	教育委員会
秦佐八郎博士顕彰委員会	秦佐八郎博士顕彰委員会条例	6 人	6 人	市 長
益田市文化財保護審議会	益田市文化財保護条例	7 人	7 人	教育委員会
史跡益田氏城館遺跡群整備検討委員会	史跡益田氏城館遺跡群整備検討委員会設置規則	15 人以内	5 人	教育委員会
益田市歴史を活かしたまちづくり検討委員会	益田市歴史を活かしたまちづくり検討委員会運営規則	15 人以内	—	教育委員会

(4) 教育審議会の状況

地方自治法第 138 条の 4 第 3 項の規定に基づいて、子ども達の教育上の諸課題に対して、学校等の校種間の連携並びに学校、家庭、地域及び関係諸機関等との連携により、相互に共通認識するとともに、協働して教育の振興を図ることを目的としています。

① 審議すべき事項

学校教育の振興に関する事項

② 令和 2 年度 益田市教育審議会開催状況

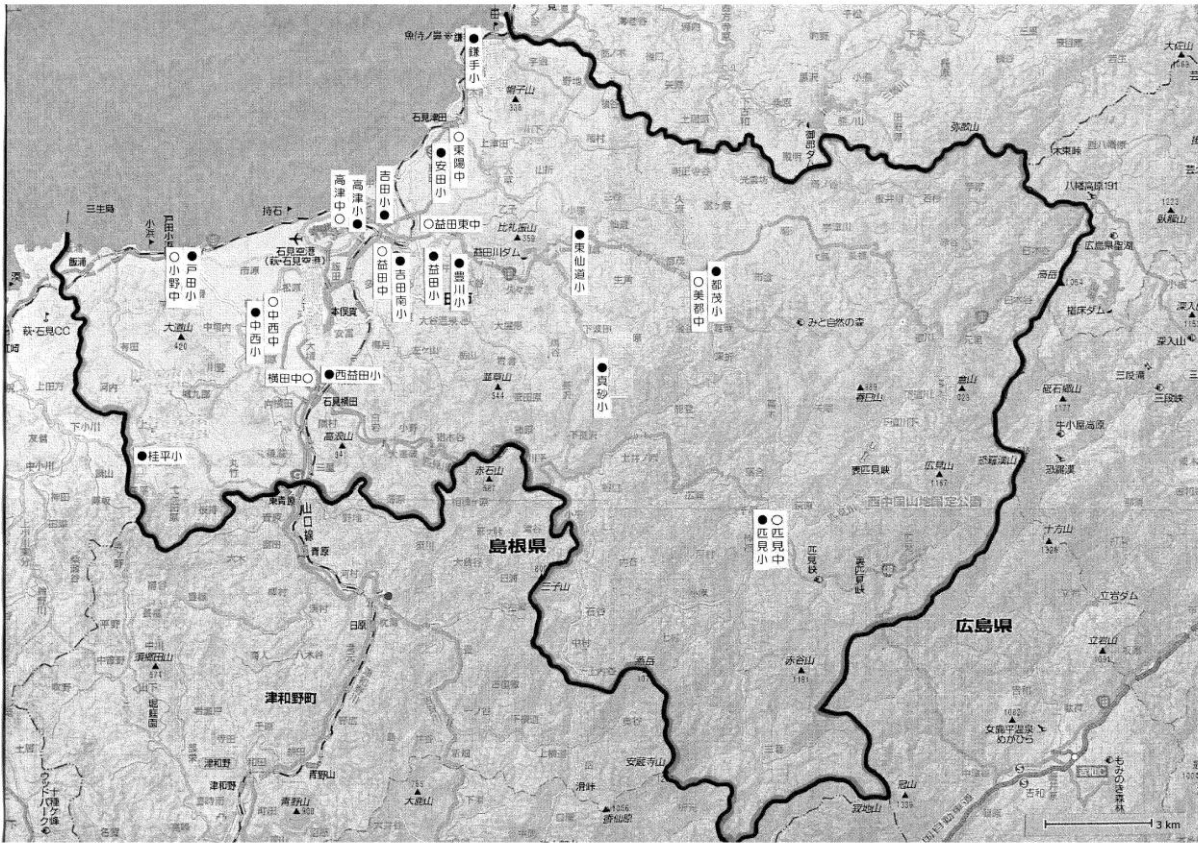
日 時	場 所	案 件
令和 3 年 2 月 4 日	第 2 会 議 室	・ 令和元年度 益田市教育委員会事務事業点検・評価について ・ 益田市が目指す近未来に向かったの情報化ビジョンについて

2 令和3年度 益田市小中学校一覧

学 校 名	住 所	電 話	校 長	教 頭	教職員数 (人)
益田小	本町7-17	22-2395	渋谷 秀文	植田 充一	23
高津小	高津一丁目34-1	22-0733	大橋 大	稲田 章一	34
吉田小	中吉田町272	22-2385	岡本 昌浩	大庭 泰二	41
吉田南小	水分町11-3	23-2321	森脇 達也	江角 貴行	15
安田小	遠田町758-1	27-0019	中島 恵治	福原 英忠	22
鎌手小	西平原町584	27-0504	岩崎 伸史	山田 恵	12
真砂小	波田町イ266-1	26-0543	佐藤 安治	山根 崇志	6
豊川小	大谷町347-2	22-2368	大石 学	大田 裕	9
西益田小	横田町147	25-2555	有 福 保	北野 憲民	17
桂平小	桂平町427	29-0019	松本 徹	篠田 隆信	7
戸田小	戸田町イ952-1	28-0009	村上 剛	大田 謙二	12
中西小	白上町イ802	28-0507	野村 浩巳	佐々木 剛一	13
東仙道小	美都町仙道125	52-2225	宮崎 晃	白井 朋己	8
都茂小	美都町都茂1887-1	52-2547	小田 川治	島田 さつき	9
匹見小	匹見町匹見イ1324	56-0017	品川 智成	松原 聡	8
益田中	栄町14-6	22-2390	林 衛	齋藤 和宏	34
高津中	高津三丁目14-1	22-1001	木原 栄彦	原屋 定道	25
益田東中	東町14-48	22-5011	倉橋 宏明	和田 政幸	23
東陽中	津田町740	27-0027	城市 博明	藤下 泰之	21
横田中	横田町8-6	25-2001	藤川 正史	房野 伸枝	16
小野中	戸田町イ1332-1	28-0011	寺戸 淳	遠藤 幸子	10
中西中	白上町イ1022	28-0510	兼子 史寛	遠藤 良典	12
美都中	美都町都茂1947	52-2525	田村 嘉久	和田 浩一	12
匹見中	匹見町匹見イ1324	56-0034	品川 智成	石川 利久	8

小 学 校 合 計	236
中 学 校 合 計	161
総 計	397

3 小中学校位置図



4 学校別学年別学級数・児童生徒数

令和3年度児童生徒数														(5月1日現在)		
学年・生徒数	1年		2年		3年		4年		5年		6年		計			
学校名	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童生徒数	学級数	特別支援学級数	
益田小学校	52	2	54	2	57	2	57	2	48	2	68	2	336	12	2	
高津小学校	61	3	57	2	85	3	64	2	69	2	77	3	413	15	3	
吉田小学校	100	4	111	4	94	3	105	3	91	3	107	3	608	20	5	
吉田南小学校	30	1	21	1	28	1	35	1	32	1	31	1	177	6	2	
安田小学校	39	2	32	1	34	1	47	2	41	2	44	2	237	10	4	
鎌手小学校	5	1	6	1	7	1	14	1	5	1	15	1	52	6	2	
真砂小学校	3	0	3	1	1	0	3	1	2	0	1	1	13	3	0	
豊川小学校	3	1	7	1	6	0	6	1	0	0	7	1	29	4	1	
西益田小学校	22	1	26	1	31	1	33	1	36	2	32	1	180	7	4	
桂平小学校	1	0	2	1	3	0	4	1	4	0	2	1	16	3	0	
戸田小学校	8	1	8	1	5	0	11	1	14	1	5	1	51	5	2	
中西小学校	11	1	14	1	20	1	7	1	12	1	15	1	79	6	2	
東仙道小学校	1	0	6	1	3	0	2	1	1	0	4	1	17	3	1	
都茂小学校	2	1	8	1	6	0	4	1	7	0	3	1	30	4	1	
匹見小学校	1	0	3	1	1	0	2	1	3	1	1	0	11	3	1	
計	339	18	358	20	381	13	394	20	365	16	412	20	2,249	107	30	

益田中学校	122	4	142	4	140	4							404	12	3
高津中学校	60	2	63	2	86	3							209	7	2
益田東中学校	81	3	63	2	72	2							216	7	3
東陽中学校	46	2	49	2	47	2							142	6	3
横田中学校	39	2	38	2	33	1							110	5	3
小野中学校	16	1	8	1	10	1							34	3	0
中西中学校	22	1	17	1	18	1							57	3	1
美都中学校	8	1	10	1	7	1							25	3	1
匹見中学校	1	1	3	1	4	1							8	3	0
計	395	17	393	16	417	16							1,205	49	16

5 令和3年度 益田市一般会計予算額（教育費）

（歳 入）

（単位：千円）

款	項	目	令和3年度	令和2年度	比 較
使用料及び手数料	使用料	教育使用料	6,593	7,201	△608
国庫支出金	国庫負担金	教育費国庫負担金	0	21,394	△21,394
	国庫補助金	教育費国庫補助金	188,955	229,892	△40,937
県支出金	県補助金	教育費県補助金	39,474	43,225	△3,751
	委託金	教育費委託金	5,581	5,832	△251
財産収入	財産売却収入	生産物売却収入	100	430	△330
寄附金	寄附金	教育費寄附金	4,100	4,100	0
繰入金	基金繰入金	斎藤驍育英基金繰入金	6,990	1,100	5,890
		秦佐八郎博士顕彰記念事業基金繰入金	297	523	△226
		小中学校施設整備基金繰入金	0	1,500	△1,500
		人麿・雪舟益田文化のまちづくり基金繰入金	0	1,000	△1,000
諸収入	貸付金元利収入	教育費貸付金元利収入	1,718	1,376	342
雑入	雑入	教育雑入	6,144	6,116	28
市債	市債	教育債	560,300	679,800	△119,500
合 計			820,252	1,003,489	△183,237

(歳 出)

(単位：千円)

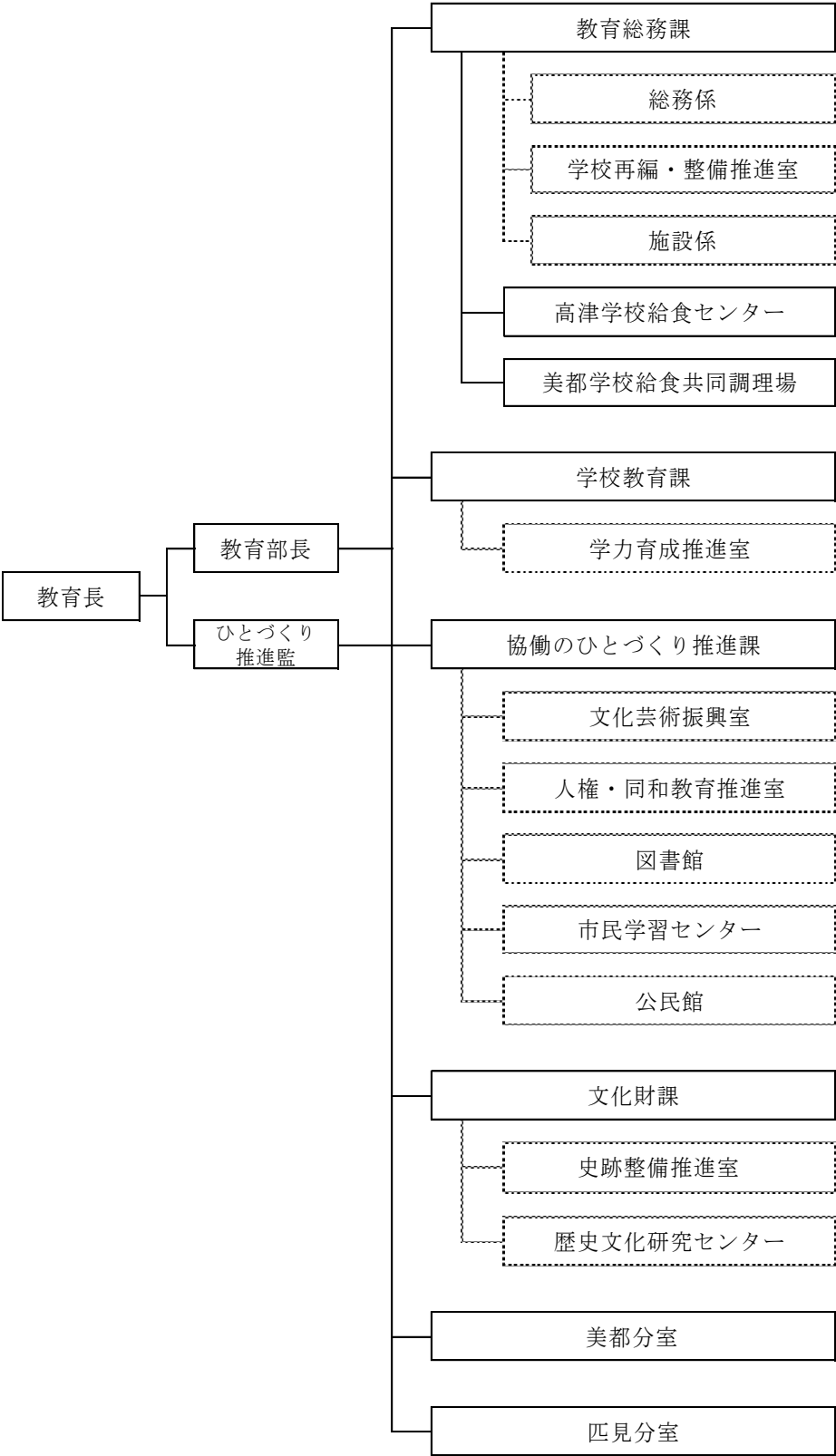
項	項	目	令和3年度	令和2年度	比 較
教育費	教育総務費		269,021	263,143	5,878
		教育委員会費	2,819	2,825	△6
		事務局費	266,202	260,318	5,884
	小学校費		956,626	1,182,557	△225,931
		学校管理費	198,997	231,451	△32,454
		教育振興費	161,494	186,841	△25,347
		学校建設費	596,135	764,265	△168,130
	中学校費		231,964	254,141	△22,177
		学校管理費	110,201	139,515	△29,314
		教育振興費	121,763	114,626	7,137
	社会教育費		645,139	611,754	33,385
		社会教育総務費	185,044	200,826	△15,782
		市民学習センター費	23,038	24,622	△1,584
		文化財費	19,418	14,260	5,158
		文化振興費	2,594	6,234	△3,640
		文化施設費	121,232	43,456	77,776
		人権・同和教育費	1,146	1,146	0
		公民館費	201,519	212,531	△2,012
		図書館費	82,148	108,679	△26,531
	保健体育費		380,341	347,749	32,592
		保健体育総務費	8,435	8,434	1
		体育施設費	94,882	73,047	21,835
		学校給食施設費	277,024	266,268	10,756
合 計			2,483,091	2,659,344	△176,253

(単位：千円)

	令和3年度	令和2年度	比 較
一般会計歳出総額	25,984,000	25,835,000	149,000
一般会計総額に占める教育費の割合	9.6%	10.3%	

6 益田市教育委員会事務局組織体制

令和3年4月1日現在



※1 は、室、施設等

資料編Ⅱ（施策・取組状況のデータ）

1 益田市奨学金事業の概要

令和3年3月31日現在

【奨学金制度】

貸付金額	高校	月額 16,000 円 以内
	高専・専修	月額 20,000 円 以内
	大学	月額 25,000 円 以内
貸付期間	在学する学校の正規の修業期間	
据置期間	貸付終了後 1 年間	
返還期間	6 年以内。2 校にわたり貸付を受けた場合は 8 年以内。	
返還免除	返還金が半額免除。 (免除の要件) 貸付け終了後、5 年以上継続して益田市内に居住し、かつ、市内または市内から通勤可能な地域で就労されていること。	

【奨学基金の運用状況】

(単位：円)

年度	基金額	貸付額	返還金	貸付残額	基金残額
28	154,763,575	8,052,000	9,946,040	69,162,615	85,600,960
29	156,865,118	7,380,000	9,506,615	67,036,000	89,829,118
30	159,107,177	8,088,000	12,881,280	62,242,720	96,864,457
R 元	160,341,475	7,368,000	9,232,820	60,377,900	99,963,575
2	161,732,014	7,128,000	9,241,100	58,264,800	103,467,214

【奨学基金の収入状況】

(単位：円)

年度	一般財源	寄附金		利 息	合 計
28	0	4,070,881	(団体 7、個人 9)	20,560	4,091,441
29	0	2,081,869	(団体 4、個人 7)	19,674	2,101,543
30	0	2,198,521	(団体 3、個人 5)	43,538	2,242,059
R 元	0	1,193,564	(団体 3、個人 3)	40,734	1,234,298
2	0	1,350,000	(個人 4)	40,539	1,390,539

【貸付者数】

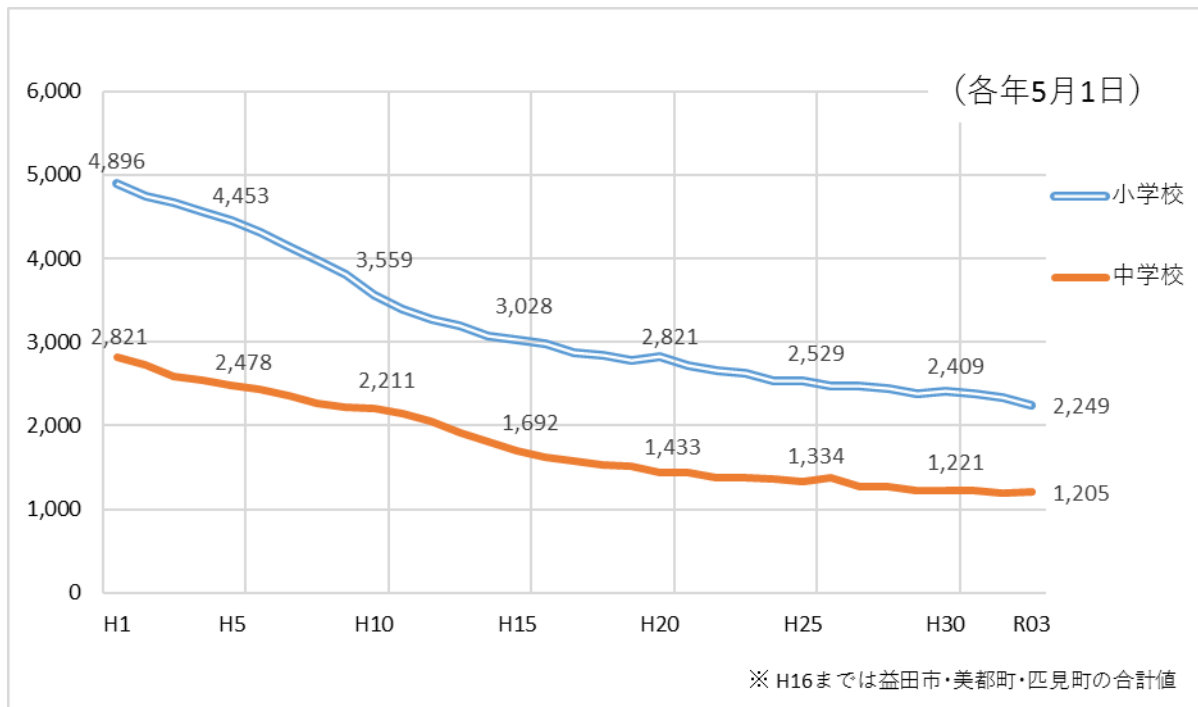
(単位：人)

年度	貸付者数 (うち新規貸付者数)			
	高 校	高専・専修	大 学	合 計
28	6 (1)	5 (1)	19 (3)	30 (5)
29	10 (5)	4 (1)	15 (5)	29 (11)
30	11 (5)	3 (1)	18 (7)	32 (13)
R 元	14 (4)	3 (2)	14 (3)	31 (9)
2	9 (1)	5 (2)	14 (2)	28 (5)
3	8 (4)	4 (1)	13 (2)	25 (7)

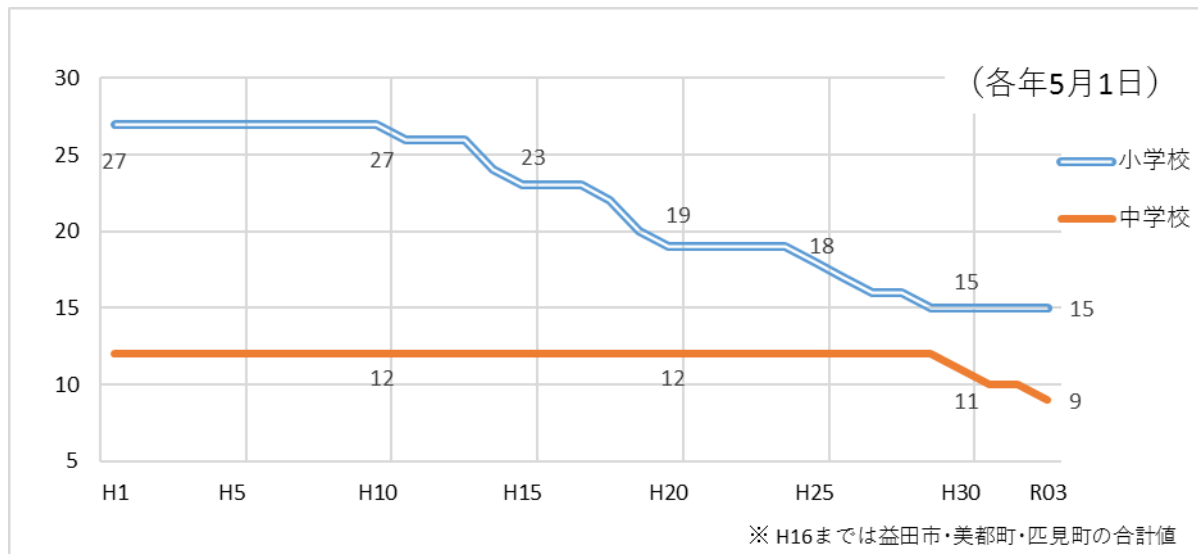
注) 途中、貸付を停止した者も含む

2 益田市の児童生徒数・学校規模等について

(1) 児童生徒数の推移（平成元年度～令和3年度）



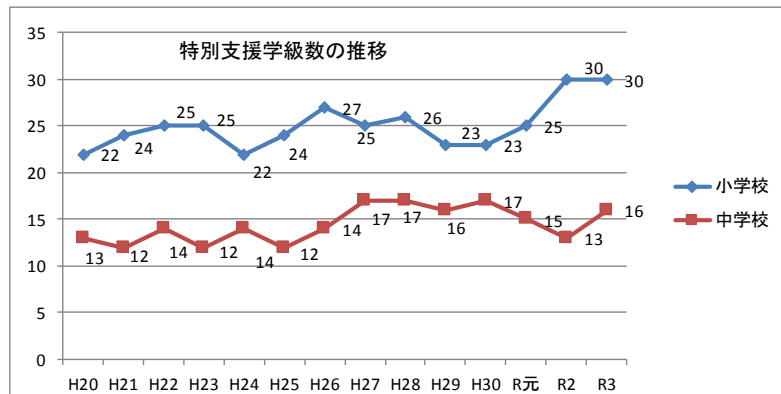
(2) 学校数の推移（平成元年度～令和3年度）



(3) 特別支援学級及び在籍児童生徒の推移

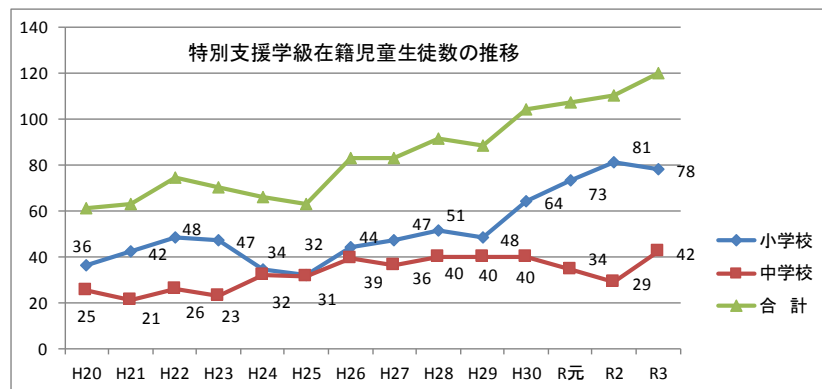
特別支援学級数 (毎年度5月1日現在) (単位: 学級)

区分	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
小学校	22	24	25	25	22	24	27	25	26	23	23	25	30	30
中学校	13	12	14	12	14	12	14	17	17	16	17	15	13	16
合 計	35	36	39	37	36	36	41	42	43	39	40	40	43	46



特別支援学級在籍児童生徒数 (毎年度5月1日現在) (単位: 人)

区分	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3
小学校	36	42	48	47	34	32	44	47	51	48	64	73	81	78
中学校	25	21	26	23	32	31	39	36	40	40	40	34	29	42
合 計	61	63	74	70	66	63	83	83	91	88	104	107	110	120



(4) 学校施設の整備の状況

① 本市の学校施設耐震化状況 (非木造及び木造)

- 全棟数 24校 72棟 (昨年: 25校 80棟)
- | | |
|------------------|-----|
| 新基準による施設 (耐震性あり) | 31棟 |
| 耐震診断により耐震性の判定施設 | 11棟 |
| 補強、改築により耐震性の確保施設 | 24棟 |
- 令和2年度末耐震化率 91.67% (31棟+11棟+24棟) / 72棟
- 未耐震化施設数 3校 6棟 (非木造: 5棟、木造: 1棟)

② 本市の学校トイレ整備状況

- 洋便器化率: 30.49% (昨年: 24.55%) 基数: 186 / 610基

3 一般会計に占める教育費の現状（他市との比較）について

益田市（益田市ホームページ）

（単位：千円）

年 度	一般会計総額	教育費	割合 (%)
令和 3 年度	25,984,000	2,483,091	9.6
令和 2 年度	25,835,000	2,659,344	10.3
令和 元年度	25,721,000	2,787,981	10.8
平成 30 年度	24,540,000	2,155,531	8.8
平成 29 年度	24,148,000	1,715,278	7.1

松江市（松江市ホームページ）

出雲市（出雲市ホームページ）

年度	一般会計総額	教育費	割合 (%)
R 3	98,176,000	10,402,746	10.6
R 2	100,236,000	12,592,735	12.6
R 元	100,198,000	11,836,882	11.8
H30	96,238,000	8,816,991	9.2
H29	93,067,000	8,097,176	8.7

年度	一般会計総額	教育費	割合 (%)
R 3	77,700,000	9,155,223	11.8
R 2	84,160,000	10,867,311	12.9
R 元	78,870,000	9,146,010	11.6
H30	76,950,000	8,965,933	11.7
H29	77,760,000	8,065,480	10.4

安来市（安来市ホームページ）

雲南市（雲南市ホームページ）

年度	一般会計総額	教育費	割合 (%)
R 3	24,860,000	2,635,979	10.6
R 2	24,492,665	2,398,184	9.8
R 元	23,973,000	2,209,854	9.2
H30	24,930,000	2,573,021	10.3
H29	27,600,000	3,740,532	13.6

年度	一般会計総額	教育費	割合 (%)
R 3	27,370,000	2,201,862	8.0
R 2	29,370,000	2,546,918	8.7
R 元	29,451,000	3,188,397	10.8
H30	29,914,000	3,175,643	10.6
H29	28,098,000	3,370,537	11.9

大田市（大田市ホームページ）

浜田市（浜田市ホームページ）

年度	一般会計総額	教育費	割合 (%)
R 3	24,400,000	1,652,406	6.8
R 2	25,505,000	1,891,089	7.4
R 元	24,560,000	1,848,553	7.5
H30	22,709,000	1,674,976	7.4
H29	23,209,000	1,760,430	7.6

年度	一般会計総額	教育費	割合 (%)
R 3	37,230,000	2,750,919	7.4
R 2	35,720,000	3,096,037	8.7
R 元	38,730,000	2,842,125	7.3
H30	39,450,000	2,978,257	7.5
H29	38,659,313	2,754,064	7.1

江津市（江津市ホームページ）

年度	一般会計総額	教育費	割合 (%)
R 3	15,017,000	1,065,613	7.1
R 2	16,555,000	989,567	6.0
R 元	16,239,000	1,028,790	6.3
H30	14,170,000	851,725	6.0
H29	14,762,000	920,942	6.2

4 令和2年度 島根県学力調査結果について

(1) 教科に関する調査の結果から

- ・県平均より総じて、やや低い学力水準にある。
- ・小5・小6算数は県平均を3ポイント以上上回った。
- ・中1・中2ともに、国語、数学、英語で県平均より2～8ポイント下回った。
- ・正答数の分布にでは、中学校において特に上位層の割合が小さい。

(2) 生活・学習意識調査及び質問紙調査の結果から

①家庭学習については、特に中学校において依然として課題が見られる。家庭生活の充実が早急の課題である。

- ・小学校においては、前年度よりも家庭学習時間の増加が見られるが、県平均よりも下回っている。中学校においては県平均よりも大きく下回っている。家庭学習の意義を児童生徒自身が考え、自ら家庭学習を計画・実施する（自学）取組や、中学校区内において学習内容や学習時間等について小中連携して取り組む実践等を働きかけることも必要となる。
- ・小中学校共に、メディア依存の傾向が強い。「平日のテレビ・ビデオ・DVD視聴が4時間以上」「平日の携帯電話・スマートフォンの利用が4時間以上」の質問項目に対し、県平均を大きく上回る。PTA総会、就学時健診等での保護者啓発に加え、小中学生及びPTA対象の巡回型情報モラル教室等も実施し、啓発活動を継続する必要がある。また、メディア接触が長い児童生徒は、早寝・早起きといった生活習慣の乱れにつながることも予想されることから、心身の望ましい発達という視点において、総合的な支援が必要となる。

②ICT活用の一層の充実

- ・授業におけるICT機器活用率は小学校・中学校いずれも県平均値を超え、活用が進んでいる。新たに導入した「1人1台端末による新しい学びのカタチ」を推進し、端末を学校だけにとどまらず、家庭・地域等でも積極的に活用し、子どもたちの情報活用能力の育成やプログラミング的思考の育成等を通して、「ひとが育つまち益田」の実現を図りたい。
- ・児童生徒のICT機器活用を推進するには、指導者である教職員の活用能力を高めることやICT機器への抵抗感の軽減も必要になる。そのため学校訪問による相談、指導助言等に加え、市内の先進校の実践の共有や研修会の開催等をとおして、教職員のICT機器活用能力の向上を図る。

【教科正答率一覧】

島根県学力調査(12月実施)の結果による

(○＝県平均より3ポイント以上上回るもの▽＝県平均より3ポイント以上下回るもの)

学年	教科	益田市	島根県	比較	学年	教科	益田市	島根県	比較
小5	国語	59.2	60.6		中1	国語	67.3	70.9	▽
	算数	62.0	57.6	○		数学	53.6	57.4	▽
小6	国語	59.8	62.7			英語	60.2	62.4	
	算数	67.4	62.9	○	中2	国語	63.6	68.0	▽
						数学	48.2	56.2	▽
						英語	47.8	54.4	▽

※新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は全国学力・学習状況調査を実施せず。

5 教育設備等について

(1) 学校における ICT 環境の整備

(令和2年3月現在)

項 目	益田市	島根県	全国平均
コンピュータ1台当たりの児童生徒数(人/台)	3.9人/台	4.4人/台	4.9人/台
普通教室における無線LAN整備率	93.7%	65.6%	48.9%
インターネット接続率(30Mbps以上)	96.0%	78.7%	96.6%
普通教室の大型提示装置整備率	88.3%	66.1%	60.0%
統合型校務支援システム整備率	40.0%	48.7%	64.8%

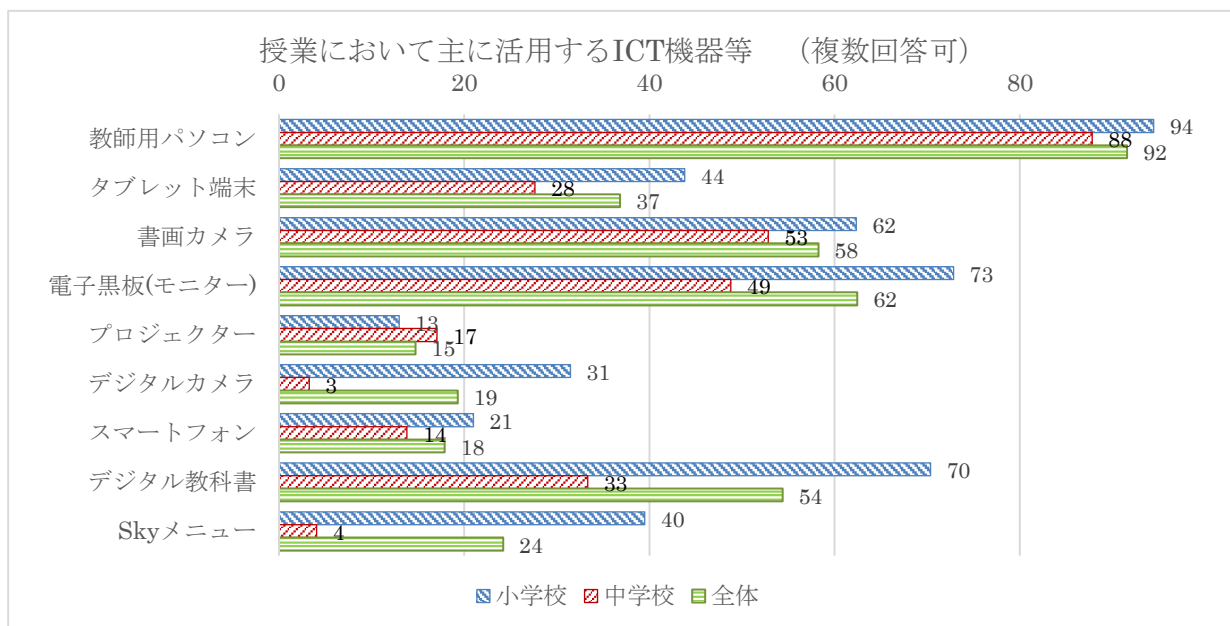
(2) 益田市の教員の ICT 活用状況

(令和2年3月現在)

① 授業において週1回以上 ICT 機器を活用している教員の割合

	平成30年	令和元年	令和2年
小学校	92.8%	94.0%	91.4%
中学校	68.0%	76.2%	82.1%
全 体	81.6%	86.4%	87.4%

② 授業において主に活用する ICT 機器



(3) 学校図書館の図書整備状況

図書購入費の推移

(単位：千円)

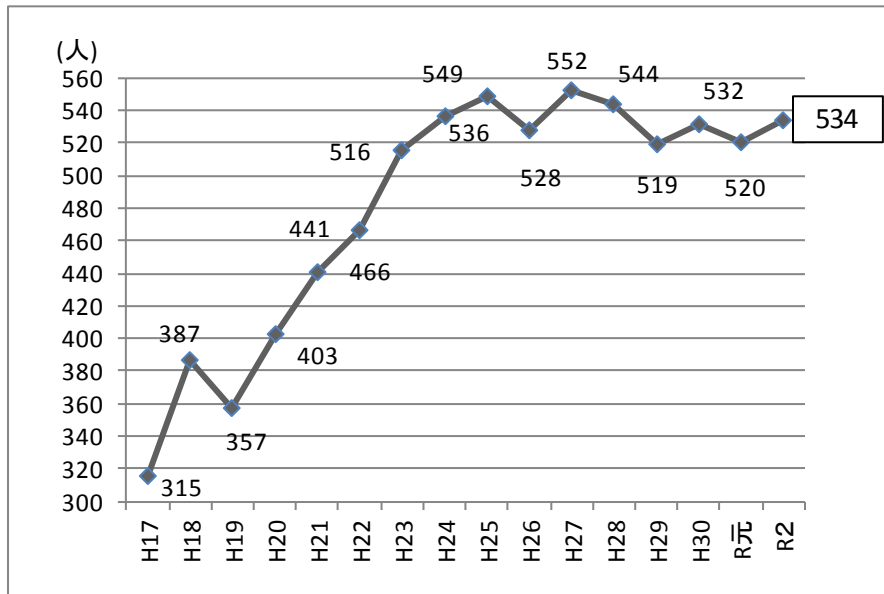
区分	H27	H28	H29	H30	R 元	R2	R3
小学校	2,552	1,244	1,276	382	386	372	362
中学校	2,684	1,042	1,048	509	471	475	446
合 計	5,236	2,286	2,324	891	857	847	808

6 就学援助について

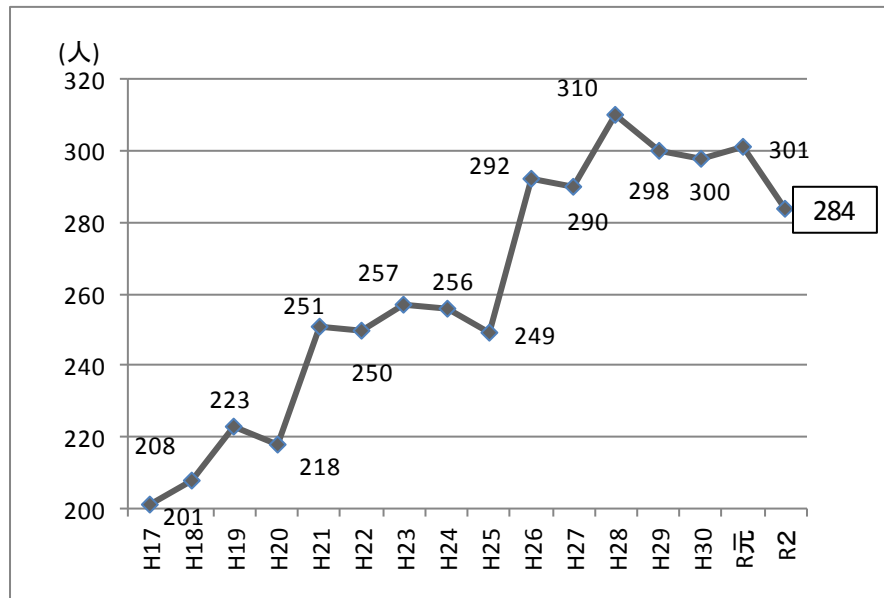
(1) 準要保護児童生徒の認定状況の推移

令和2年度末の小学校の認定数は、534人と全体の22.9%を占めている。
また、中学校の認定数が284人と全体の23.6%を占めている

小学校の年度別認定状況



中学校の年度別認定状況



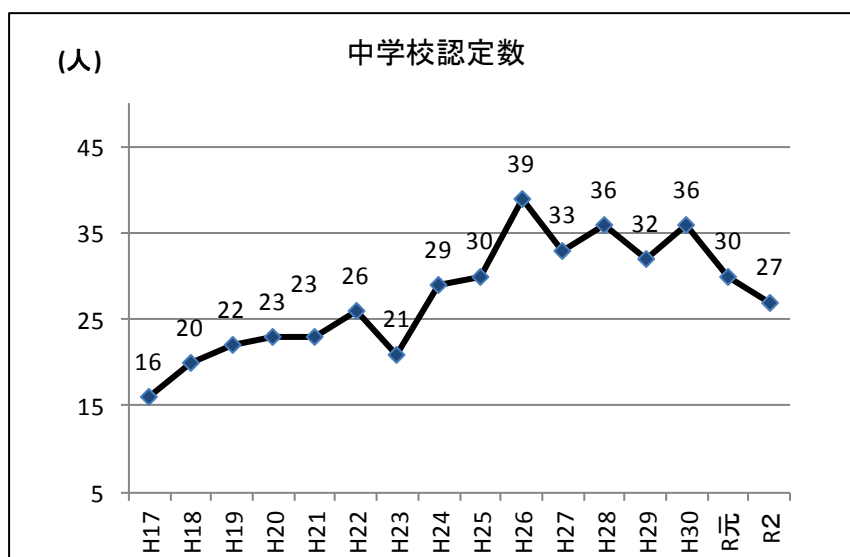
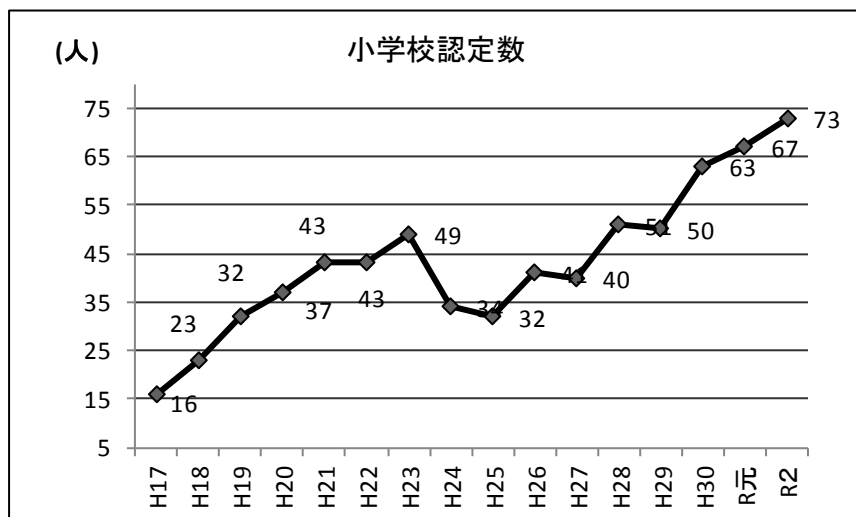
※援助の対象となる世帯は

前年度または当年度において

- ・市民税が非課税または減免になっている。
- ・児童扶養手当法による手当の支給を受けている。
- ・家族の休職・離職・離婚・病気などで経済的に不安定な状況にある。

その他一定の基準により所得状況等を勘案のうえ、教育委員会が認定する。

(2) 特別支援教育就学奨励児童生徒の認定状況の推移



(3) 特別支援教育支援員等の配置状況

区分	令和2年度			令和3年度		
	学校教育 支援員	特別支援 学級支援員	日本語 支援員	学校教育 支援員	特別支援 学級支援員	日本語 支援員
小学校	19	1	1	18	3	0
中学校	0	0	1	0	2	1
計	19	1	2	18	5	1

学校教育支援員：通常学級に在籍する児童生徒に支援を行う。

特別支援学級支援員：特別支援学級の在籍児童生徒に支援を行う。

日本語支援員：日本語指導が必要な児童生徒に支援を行う。

※介助員・看護師は除く。

7 益田市立図書館について

(1) 令和2年度 益田市立図書館蔵書等利用状況

【益田市立図書館】入館者及び利用者（下段(参考)元年度）

開館 日数	入館者数 (人)	利用者数 (人)	図書資料および視聴覚資料貸出状況						
			一般書 (冊)	児童書 (冊)	学校資料 (冊)	雑 誌 (冊)	A V資料 (点)	郷土資料 (冊)	計
319	92,211	33,534	62,605	57,140	661	9,641	2,957	16	133,020
331	130,504	41,659	68,709	71,289	619	10,606	5,612	6	156,841

【益田市立美都図書館】入館者及び利用者（下段(参考)元年度）

開館 日数	入館者数 (人)	利用者数 (人)	図書資料および視聴覚資料貸出状況						
			一般書 (冊)	児童書 (冊)	学校資料 (冊)	雑 誌 (冊)	A V資料 (点)	郷土資料 (冊)	計
261	1,247	990	1,580	1,425	-	158	111	5	3,279
264	1,780	1,122	1,408	1,786	-	171	217	5	3,587

(2) 令和2年度 資料等整備状況

【益田市立図書館】

① 図書資料（下段(参考)元年度）

年間蔵書内訳				令和2年度末蔵書数		
一 般		児 童		一 般	児 童	計
受入冊数	除籍冊数	受入冊数	除籍冊数			
2,930	1,822	761	149	133,199	51,195	184,394
2,451	1,723	513	118	132,124	50,516	182,640

② 視聴覚資料（下段(参考)元年度）

年間タイトル内訳				令和2年度末タイトル数		
一 般		児 童		一 般	児 童	計
受入数	除籍数	受入数	除籍数			
16	1	0	0	5,329	1,464	6,793
15	0	0	1	5,313	1,464	6,777

【益田市立美都図書館】

① 図書資料（下段(参考)元年度）

年間蔵書内訳				令和2年度末蔵書数		
一 般		児 童		一 般	児 童	計
受入冊数	除籍冊数	受入冊数	除籍冊数			
319	172	126	6	16,812	10,750	27,562
289	223	125	8	16,666	10,632	27,298

② 視聴覚資料（下段(参考)元年度）

年間タイトル内訳				令和2年度末タイトル数		
一 般		児 童		一 般	児 童	計
受入数	除籍数	受入数	除籍数			
0	3	0	12	650	279	929
0	0	0	2	653	291	944

8 益田市子ども・若者支援センターについて

【活動内容】

不登校、引きこもりや無就労などの状況にある子ども・若者、また、その保護者等の悩み相談や、自立、就労支援を行う。必要に応じ、関係機関との連携をとり対応にあたっている。

(1) 令和2年度 相談関係受理事等の状況

(人)

月	相談者等の区分							相談受 理延べ 人数 合計	(参考) 元年度 延べ人 数合計	相談等受理事実人数						実人 数 合計
	小学 生	中学 生	高校 生	義務 卒 ～19 歳	若者 20歳 ～ 39歳	小計	保護 者教 員等			小	中	高	義務 卒	若 者	保 / 他	
4	7	26	15	1	42	91	35	126	228	2	5	6	1	14	26	54
5	20	13	7	9	46	95	28	123	232	4	5	2	2	12	22	47
6	26	17	11	1	63	118	56	174	281	4	6	4	1	19	40	74
7	10	7	10	1	75	103	42	145	272	2	4	6	1	17	31	61
8	4	14	13	1	45	77	31	108	135	4	4	4	1	14	19	46
9	3	31	11	3	51	99	30	129	190	3	8	5	22	16	22	56
10	6	39	20	1	61	127	38	165	241	3	7	4	1	18	32	65
11	9	25	31	0	41	106	37	143	197	3	9	5	0	13	36	66
12	44	18	38	1	46	147	22	169	242	5	8	8	1	13	22	57
1	16	22	31	1	32	102	19	121	213	6	6	5	1	17	16	51
2	17	11	29	0	45	102	44	146	242	6	6	5	0	15	36	68
3	4	19	24	1	48	96	31	127	107	2	9	8	1	16	29	65
計	166	242	240	20	595	1263	413	1676	2,580							

(2) 令和2年度 相談等受理事実人数

(人)

区分	小学生	中学生	高校生	義務卒 ～19歳	若者 20歳～ 39歳	保護者	機関	合計	(参考) R元年度
人数	12	19	18	5	32	46	93	225	225

(3) 令和2年度 相談関係電話件数

(4) 令和2年度 開所日数及び平均受理事数

月	件数	(参考) R元年度
4	9	11
5	7	9
6	16	21
7	10	25
8	4	14
9	13	22
10	12	10
11	9	9
12	8	8
1	5	11
2	8	14
3	6	16
合計	107	170

月	令和2年度			(参考) R元年度		
	開所 日数	平 均 受理事数	内子ども ・若者	開所 日数	平 均 受理事数	内子ども ・若者
4	21	6.0	4.3	20	11.4	9.0
5	18	6.8	5.3	19	12.2	11.2
6	22	7.9	5.4	20	14.1	12.1
7	21	6.9	4.9	22	12.4	10.6
8	18	6.0	4.3	17	7.9	6.2
9	20	6.5	5.0	19	10.0	8.5
10	22	7.5	5.8	21	11.5	9.3
11	19	7.5	5.6	20	9.9	8.4
12	19	8.9	7.7	20	12.1	9.8
1	19	6.4	5.4	18	11.8	9.5
2	18	8.1	5.7	18	13.4	11.2
3	23	5.5	4.2	21	5.1	4.2
計	240	7.0	5.3	235	11.0	9.1

9 放課後子ども教室について

令和2年度 放課後子ども教室実施状況

＜放課後子ども教室（益田市では「ボランティアハウス」と称す）の目的＞

小学校の子どもたちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、子どもたちの勉強やスポーツ・文化活動、交流活動等に取り組むことにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。

【対象者】小学生（1年生～6年生）

【指導員】地域住民のボランティアなど

【活動内容】各教室が独自の内容で運営

教室実施状況

子ども教室名	活 動 日 数		子 育 て パートナー 延べ人数	活 動 内 容
	活動頻度	年 間 延べ日数		
高 津 ボランティアハウス	出校日	165	1089	自由遊び、自主学習など 将棋、お茶などの講座
吉 田 ボランティアハウス	出校日	121	410	開催日ごとに内容を決めて活動（民謡、お茶、お花、百人一首など）
安田ボランティア ハウス千鳥園	出校日 ほぼ毎日	196	753	自由遊び（プレーパーク千鳥園内で自由に遊ぶ）
益 田 ボランティアハウス	出校日	87	281	開催日ごとに内容を決めて活動（将棋、お琴、昔あそびなど）
西益田 ボランティアハウス	月 1 回	14	211	季節の行事にあった活動（稚鮎の放流、お月見会、凧揚げ大会など）
吉田南 ボランティアハウス	休止中	0	0	
真 砂 ボランティアハウス	月 3 回	16	22	開催日ごとに内容を決めて活動（季節の行事など）
種 ボランティアハウス	出校日	52	114	自由遊び（宿題、自由遊び）
東仙道 ボランティアハウス	週 1 回	5	39	体験活動等（米作り体験、映画会など）
ひとまる 小 野 ハ ウ ス	週 1 回	37	237	宿題をした後、自由遊び、テーマを決めて各種体験
都 茂 ボランティアハウス	月 1 回	6	32	体験活動等（調理実習、川遊び、季節の行事など）
二 条 ボランティアハウス	月 1 回	23	70	自由遊び（宿題、自由遊び）
合 計			3,258	

※年間延べ日数には、上記記載の活動頻度の他、休日の活動日数も含む

10 公民館活動実施状況について

地区名	事業数	参加者	館長	主事	応援隊員	合計	幼児	小学生	中学生	高校生	20歳未満	20歳以上65歳未満	65歳以上	合計	前年実績	割合
益田	514	4,611	48	91	29	174	23	288	70	24	0	1,685	2,532	4,622	10,416	44%
吉田	483	5,338	70	237	42	325	32	320	142	82	4	1,024	3,552	5,137	10,008	51%
高津	815	8,262	45	90	33	162	151	538	99	126	56	2,046	4,254	8,168	22,125	37%
安田	708	7,506	51	100	28	160	73	484	95	35	7	1,300	4,893	6,888	11,458	60%
鎌手	192	2,809	21	42	7	43	0	181	56	54	0	535	1,010	1,798	5,745	31%
種	133	1,238	20	35	20	75	2	48	8	0	0	637	277	972	3,097	31%
北仙道	661	8,471	107	592	34	730	52	2,788	133	132	0	3,071	1,591	7,741	9,586	81%
豊川	323	4,872	50	200	34	284	14	688	403	93	0	78	98	1,374	2,085	66%
真砂	99	1,161	52	38	19	109	27	22	41	28	2	364	473	983	1,766	56%
豊田	690	6,265	80	236	49	364	32	375	268	90	77	1,700	2,841	5,389	13,708	39%
西益田	322	4,291	38	233	33	304	12	27	181	13	6	529	2,006	2,774	4,970	56%
二条	240	1,960	76	130	21	227	4	213	20	36	8	543	961	1,785	6,360	28%
美濃	234	2,287	51	101	33	182	16	63	35	47	7	584	1,360	2,106	4,198	50%
小野	557	6,485	56	126	25	206	26	595	75	42	2	1,173	3,258	6,279	11,344	55%
中西	612	7,149	50	171	33	253	34	1,166	133	48	5	1,647	3,850	6,883	8,805	78%
東仙道	304	2,991	22	44	22	88	65	317	94	42	0	1,273	1,209	3,000	5,969	50%
都茂	104	929	54	112	27	193	2	96	9	47	0	210	156	520	1,140	46%
二川	223	2,189	70	127	105	302	429	0	37	30	0	722	662	1,887	3,508	54%
匹見上	237	3,173	154	182	55	379	22	126	134	57	2	1,000	1,471	2,809	3,329	84%
匹見下	16	71	11	9	2	20	0	0	0	0	0	7	38	36	291	12%
道川	128	1,878	85	115	38	238	2	5	4	6	0	140	276	428	1,674	26%
	7,595	83,936	1,211	3,011	689	4,818	1,018	8,340	2,037	1,032	176	20,268	36,768	71,579	141,582	51%

11 スポーツ活動の推進について

平成25年8月に策定した「益田市スポーツ推進計画」に沿って、市民生活におけるスポーツの果たす役割の重要性を考慮し、スポーツで人と人をつなぎ、誰もがスポーツに親しめる環境づくりを進めます。

(1) 「する」スポーツの充実

① 事業名 令和2年度エンジョイ・スポーツますだ

《事業内容》

市民の健康増進と体力向上に向け、スポーツ等を通して健康で豊かなスポーツライフの実現を目的として、スポーツ・レクリエーション団体等により市民の生涯スポーツの普及と健康増進、体力向上に向けた事業を実施。ニュースポーツをはじめとする11種目を開催。

○開催期日 令和2年9月13日（日）～11月28日（土）

○開催場所 益田運動公園内各施設

○種目別参加者実績 11種目 369名

② 事業名 益田運動公園主催事業（各種教室、イベント等）

益田運動公園主催により、様々なスポーツやレクリエーション等の教室やイベントを開催し、子どもから高齢者、障がい者の方々と楽しく体を動かすことができる場を提供している。

○開催回数 教室・・・293回 2,696人参加

教室訪問型・・・109回 1,600人参加

イベント・・・16回 1,052人参加

○開催場所 教室・イベント・・・益田運動公園施設

教室訪問型・・・公民館、学校、障がい者施設

(2) 「みる」スポーツの充実

① 事業名 〈高体連関係〉

2020年度島根県高等学校野球一年生大会 10/10～10/17

第66回島根県高等学校新人陸上競技大会 9/19～9/20

島根県高等学校サッカー選手権大会 10/31

島根県高等学校新人テニス大会 石見地区予選 8/22～8/23

〈中体連関係〉

鹿足ブロック中学校新人大会 10/7～10/8

石見地区中学校駅伝競走大会 10/13

〈社会人関係〉

第53回中国五県軟式野球大会 6/28

第92回西中国陸上競技大会 10/25

《事業内容》

現在、プロスポーツを誘致できる施設が少なく、市内の子ども達にプロスポーツを見せる機会がないのが現状。しかし、県内の高校生の大会や、中学校県大会、また、全国大会につながる社会人の大会を小学生や中学生が見ることで、スポーツへの関心や意欲を高めると同時に、県内の競技力の向上にも繋がる。

(3)「ささえる」スポーツの充実

① 事業名 一般社団法人益田市スポーツ協会設立

《事業内容》

益田市スポーツ協会では、益田市の競技スポーツの振興、またスポーツを通じた市民の健康づくりの促進を推し進める。

○スポーツ協会参画団体数 22 団体

(4)「地域社会」との連携

① 事業名 令和2年度 運動好きな子どもを育てるための地域連携事業

《事業内容》

児童、未就学児を対象に運動好きな子どもを育てるために、学校やその他の地域団体と連携し地域ぐるみで、学校教育活動外の時間を活用しながら様々なスポーツやレクリエーションなどを開催。また、市内の小学生親子を対象とした教室を年間通して開催。

○開催期日 令和2年8月～令和3年2月

【訪問型】5回

【教室型】6回

○開催場所 【訪問型】市内小学校（中西小学校）

【教室型】内田交流センター、美都さくらドーム

○講師 【訪問型】益田市スポーツ推進委員

【教室型】益田市スポーツ推進委員、益田市レクリエーション協会、ボアソルテスポーツクラブ、外部講師 等

○参加者実績 【訪問型】参加児童等 65 名（延べ人数）

【教室型】参加親子 162 名（延べ人数）

12 文化芸術の振興について

(1) 協議会、実行委員会

① 芸術文化とふれあう協議会事業

(ア) グラントワ利用支援事業（バス代等交通費助成）

- ・ 益田市 11 件 609,740 円
- ・ 津和野町 2 件 30,600 円
- ・ 吉賀町 2 件 176,000 円

(イ) 意識啓発事業（いつでもどこでも音楽祭実施・地域や学校へ出かけてのアウトリーチ演奏会及び講座）

- ・ いつでもどこでも音楽祭 6 回
- ・ アウトリーチ演奏会等 6 回

(ウ) 小中学校石見美術館入館無料化事業（圏域の小中学生を対象に、無料で美術館へ入館可能とする。また同伴保護者 1 名につき半額減免する。）

- ・ 小学校 222 人
- ・ 中学校 38 人
- ・ 同伴者 76 人

(エ) 夢と未来創造事業（NHK の公開番組等を誘致する。）

- ・ 今年度は新型コロナウイルス感染拡大予防の観点から開催中止。

(オ) キッズ&ユースのための芸術鑑賞事業（圏域の小中高生を対象に、格安で芸術事業の鑑賞が可能とする。）

- ・ 3/21 今福優和太鼓公演「祝いの太鼓だ どんどこどん」 15 人

(2) 令和 2 年度 文化施設の入館者数

① 雪舟の郷記念館 令和 2 年度入館者数（下段（参考）元年度）

	開館日数 (日)	有料入館者(人)		バス等 (人)	無料入館者(人)		入館者数合計(人)		
		個人	団体扱		小中高	その他	有料	無料	合計
R2	217	一般 1,297	一般 175	232	466	945	1,495	1,643	3,138
		小中高 23	小中高 0						
R1	223	一般 1,222	一般 119	242	560	909	1,381	1,711	3,092
		小中高 37	小中高 3						

② 歴史民俗資料館 休館中

(3) 令和 2 年度 偉人顕彰、後継者育成

① 秦佐八郎博士顕彰学校出前講座

- 市内小学校 2 校 市内中学校 1 校
- 市内公民館 3 館

② 糸操り人形後継者育成事業

益田の伝統芸能である益田糸操り人形にふれて、理解を深めてもらうため、学校や公民館等で出前公演およびワークショップを開催する。

市内小学校 1 校

13 ライフキャリア教育の取組状況について

(1) 「夢の教室」の開催

- 概 要 世界で活躍しているトップアスリートと小学生による交流プログラムである。子どもたちが、トップアスリートが日々の生活で大切にしている考えに触れ、日々の生活においての目標を持つきっかけを提供する。(公財)日本サッカー協会の社会貢献事業として実施している「夢の教室」を活用する。
- 開 催 日 令和2年10月20日～令和3年2月18日
- 実 施 校 益田市内 小学校(12校)5年生、
内複式5・6年(桂平、匹見、東仙道、戸田、都茂)
児童 360名
- 夢 先 生 川股要佑(サッカー・フットサル)、梅田翼(フットサル)
式田高義(サッカー)、小林弥生(サッカー)、古河裕次(サッカー)
荒井美穂(アーティスティックスイミング)、川邊隆弥(サッカー)
安永聡太郎(サッカー)、岩屋睦子(バスケットボール)
西山淳哉(ラグビー)、野田恭平(サッカー)、筏井りさ(サッカー)
法師人美佳(サッカー)、高橋一馬(アイスホッケー)
- アシスタント 筏井りさ、久光邦明、西山淳哉、梅田翼、小林弥生、高田保則、法師人美佳

(2) 「益田版カタリ場」の開催

- 概 要 「子どもと大人の心に火を灯す」をコンセプトとした、本音による対話型交流プログラムである。互いの「人生」について対話を通し知り合い、自身の人生観を育む。「認定NPO法人カタリバ」が全国の中高校生を対象に展開している動機付けキャリア学習プログラム「カタリ場」の手法を使った益田版の独自のキャリア教育プログラムである。
- 実 績 校 小学校 13校
(益田、高津、吉田、吉田南、安田、真砂、豊川、西益田、桂平、戸田、中西、東仙道、匹見)
中学校 8校
(益田、益田東、東陽、真砂、横田、中西、美都、匹見)
高等学校 3校 (益田、翔陽、明誠)
※参加者数：1,298名、参加キャスト462名(延べ人数)

(3) 「新・職場体験」の実施

- 概 要 市内の中学3年生が、市内の事業所で職場体験を行う。ワークキャリア(職業観)のみに偏った単なる仕事の体験ではなく、そこで働く「ひと」や「生き方」との出会いの体験を大切にしたい職場体験である。働いている人との対話などの交流を通して、職業観や人生観を育む。また、「求人票」の発行や「面接」の実施など、これまでより中学生が主体的に職場体験に臨むことができる工夫をしている。
- 実 施 校 中学校 10校
※参加者 380名、事業所 139社

14 歴史・文化財等の普及啓発について

(1) 益田市指定文化財一覧表

(令和3年5月1日現在)

種別／区分		指定区分						合計
		国宝	重要文化財	国指定	登録文化財	県指定	市指定	
有形文化財	建造物		2		10	3	5	20
	絵画		3			2	7	12
	彫刻					4	13	17
	工芸品						2	2
	書跡							
	古文書					3	7	10
	考古資料					1	5	6
	歴史資料						1	1
無形文化財	工芸技術							
民俗文化財	有形民俗文化財					2	2	4
	無形民俗文化財					2	11	13
記念物	史跡			4		4	41	49
	名勝					1		1
	史跡及び名勝			2			1	3
	天然記念物			1		2	9	12
	特別天然記念物							
合計			5	7	10	24	104	150
			12					

※この他、「重要美術品等ノ保存ニ関スル法律」(昭和8年4月1日法律第43号)による認定重要美術品として「柿本神社御法楽御短冊」がある。

○ 益田市指定文化財一覧 (時代別)

(令和3年5月1日現在)

	国宝		重要文化財		国指定		登録文化財		県指定		市指定		合計
原始									史跡1	1	考古2 史跡9	11	12
古代					史跡2	2			彫刻1 史跡2	3	彫刻2 考古1 史跡11	14	19
中世			建造物2 絵画2	4	史跡2 史名2	4			建造物2 絵画2 彫刻3 古文書3 考古1 史跡1	12	建造物3 絵画1 彫刻9 古文書4 考古2 史跡15	34	54
近世			絵画1	1			建造物4	4	建造物1 有民1	2	建造物2 絵画6 彫刻1 工芸品2 古文書2 歴資1 有民2 無民2 史跡6	24	31
近代							建造物6	6	有民1 無民2	3	彫刻1 無民9 古文書1	11	20
その他					天然1	1			名勝1 天然2	3	史名1 天然9	10	14
合計			5		7		10		24		104		150

(2) 史跡公有化の実績

中世益田氏の居館三宅御土居跡と居城七尾城跡は、平成 16 年度に益田氏城館跡の名称で国史跡に指定された。また、平成 26 年度には、中須町に所在する中世の湊町の遺跡である中須東原遺跡が国史跡に指定された。

これを受けて、国民共有の財産として適切に保存管理するとともに、歴史を活かしたまちづくりの中核となる歴史遺産としての整備活用を目指し、各史跡の公有化を進めている。

○令和 2 年度末時点の公有化率

① 益田氏城館跡（三宅御土居跡）

総指定面積 31,762.45 m²

指定時既公有地面積 5,803.03 m² + 指定後公有地面積 10,202.94 m² = 16,005.97 m²

公有化率 50.4%

② 益田氏城館跡（七尾城跡）

総指定面積 265,741.12 m²

指定時既公有地面積 107,359.1 m² + 指定後公有地面積 1,749.39 m² = 109,108.49 m²

公有化率 41.1%

③ 中須東原遺跡

総指定面積 43,936.60 m²

指定時既公有地面積 3,574.35 m² + 指定後公有地面積 38,071.51 m² = 41,645.86 m²

公有化率 94.8%

(3) 遺跡見学会等の開催

地域の遺跡や歴史文化を現地で見学してもらう機会として、遺跡見学会を開催した。特にスクモ塚古墳の現地説明会は、発掘調査中の遺跡を見学できる数少ない機会であり、多くの来場者があった。

年月日	遺跡名	内 容	参加者数
10 月 31 日（土）	大元古墳、鶯の鼻古墳群、 小丸山古墳、スクモ塚古墳	山陰史跡整備ネットワーク会議共同事業 「さんいん史跡日和」における古墳の見学	11 人
11 月 21 日（土）	スクモ塚古墳	発掘調査現地説明会	150 人

(4) 学校との連携

子どもたちが地域の歴史文化に対する理解や関心を深めることができるよう、新たに認定された日本遺産の説明や職場体験の受け入れなどの学習支援を行った。また、教員を対象とした日本遺産出前講座を小学校 14 校、中学校 10 校で実施した。

年月日	学校名	内 容	参加者数
9 月 9 日（水）	島根県立益田翔陽高等学校 総合学科 2 年生	インターンシップ（益田の日本遺産）	3 人
9 月 24 日（木）・ 25 日（金）	益田市立益田中学校 2 年生	職場体験（スクモ塚古墳発掘調査）	2 人
10 月 1 日（木）	島根県立益田養護学校 高等部 2 年生	余暇活動に関する学習（益田の日本遺産）	6 人
令和 2～3 年度	島根県立益田高等学校 3 年生	課題探求（益田の日本遺産）	4 人

(5) 地域との連携

益田市の歴史文化や日本遺産の魅力・価値について理解を深めてもらい、地域に対する誇りの向上につなげるため、講演会や現地見学に対して講師の派遣を行った。さらに、日本遺産を普及啓発するための取り組みとして、公民館での出前講座を17館で実施した。

年月日	講座等名	主催者	区分	参加者数
6月6日(土)	観光ボランティア養成講座「益田の歴史の魅力をどう語るか」	観光交流課	講師	20人
7月8日(水)	「七尾城と三宅御土居」	益田公民館	講師	35人
8月1日(土)	「益田の何が日本遺産に評価されたのか」	石西の文化を学ぶ れんげ草の会	講師	80人
8月4日(水)	登録有形文化財の見学	門前自治会	現地案内	20人
8月23日(日)	「戦国時代の阿武郡 吉見氏 VS 益田氏」	史都萩を愛する会	講師	60人
9月4日(金)	「益田の日本遺産認定とこれから」	益田ロータリークラブ	講師	15人
9月26日(土)	「益田市文化財保存活用地域計画に基づく歴史を活かしたまちづくりの方向について」	益田市柿本人麿公顕彰会	講師	30人
9月26日(土)	「益田市の日本遺産認定とこれから」	高津川流域地域通訳案内士事業推進協議会	講師	25人
10月6日(火)	「豊田・西益田地区の近世山陰道」	豊田公民館	講師	40人
10月15日(木)	「日本遺産について」	益田公民館	講師	20人
10月18日(日)	シンポジウム「日本遺産と歴史のまちづくりを考える」	石西の歴史と考古を語る会	講師・ パネラー	90人
10月22日(木)	「中世の益田について」	鹿足郡教育研究会 社会科部会	講師・ 現地案内	12人
11月12日(木)	医光寺の見学	松江市立母衣小学校	現地案内	76人
11月17日(火)	「益田市の日本遺産認定とこれから」	南日本海技術・市場交流プラザ	講師	15人
12月4日(金)	下本郷周辺の文化財の調査	吉田の未来を考える会 歴史文化班	現地案内	5人
12月6日(日)	現地見学会「益田氏の歴史を紐解く旅」	おどいの宴実行委員会	現地案内	35人
12月12日(土)	中世の益田をめぐる見学会	史都萩を愛する会	現地案内	20人
1月9日(土)	「日本遺産について」	益田地区自治会連合会	講師	10人
2月6日(土)	「益田地区の日本遺産構成文化財の魅力」	ますだ地域づくり協議会	講師	30人
2月10日(水)	「日本遺産のまち益田」	島根県職員退職者会 益田支部	講師	15人
2月14日(日)	「豊田・西益田地区の近世山陰道」	西益田地区文化振興会	講師	40人
3月10日(水)	「中世益田歴史教室」	特定非営利活動法人 NPO-MASUDA	講師	20人

15 人権・同和教育の研修実績について

(1) 教職員向研修

① 令和元年度

	日 程	演 題	講 師	参加者数
1	8月7日(水) 13:30～15:00	「誰もが暮らしやすいユニバーサル社会の実現に向けて」	尾村 幸行 県西部人権啓発推進センター 啓発指導講師	115 人 (193 人)
2	8月20日(火) 9:30～11:00	「私の思い」 ～出会いから学び得たもの～	日野 清人 全日本同和会島根県連合会 啓発員	121 人 (457 人)
3	8月21日(水) 10:00～12:00	「人権を基軸とした「道徳科」の授業づくり」	園田 雅春 びわこ成蹊スポーツ大学 客員教授	147 人 (223 人)

() は参加者総数 383 人

② 令和2年度

	日 程	演 題	講 師	参加者数
1	7 月	「同和問題と AI 社会」	北口 末広 近畿大学教授人権問題研究室	中止
2	8 月	「女性の人権と DV が及ぼす子どもへの影響」	松崎 真佐緒 NPO 全国マザーズフォーラム理事	中止
3	8月18日(火) 9:00～11:00	「子どもの人権～引きこもり」	石原 直子 出雲市立灘分小学校教諭	中止
4	9月25日～ 2月17日	DVD 視聴研修 「恥ずかしいのはどっちだ」 (同和問題) 「わっかカフェへ ようこそ」 (様々な人権) 「人権は小さな気づきから」 (様々な人権) 「ステキな恋愛の法則」 (デート DV)	参集型研修が開催できなかったため、各学校において選択した人権啓発 DVD を視聴して話し合いをする少人数型の研修を行った。	278 人 (延 312 人)

() は参加者総数 278 人

(2) 人権・同和教育推進協議会委員、事務局向研修

① 令和元年度

	日 程	内容・テーマ	講 師	参加者数
1	10月17日(木) 13:30～15:30 匹見上公民館	「気づこう！身の周りのさまざまな人権」	小田川 整子 元島根県益田教育事務所 同和教育指導員	24人
2	11月14日(木) 13:30～15:30 ふれあいホール みと	知っていますか？「益田事件」 ～多文化共生時代に活かそう～	福原 孝浩 市民活動養成塾 塾長	32人
3	12月8日(日) 13:30～15:00 総合福祉 センター	人権週間講演会 「ハンセン病問題の現状と課題」	堅山 勲 ハンセン病国賠訴訟原告団	57人

113人

② 令和2年度

	日 程	内容・テーマ	講 師	参加者数
1	10月29日(木) 13:30～15:00 匹見 タウンホール	「気づこう！身の周りのさまざまな人権課題」 ～誰もが安心して暮らせる地域であるためにコロナ差別を考えよう～	小田川 整子 元島根県益田教育事務所 同和教育指導員	39人
2	11月19日(木) 13:30～15:00 ふれあいホール みと	「気づこう！身の周りのさまざまな人権課題」 ～誰もが安心して暮らせる地域であるためにコロナ差別を考えよう～	小田川 整子 元島根県益田教育事務所 同和教育指導員	40人
3	12月8日(火) 13:30～15:30 人権センター	「ハンセン病問題の現状と課題 20年のあゆみから」	福原 孝浩 市民活動養成塾 塾長	71人 (77人)

() は参加者総数 150人

令和 3 年 6 月

令和 3 年度 益田市の教育の概要

編集・発行

益田市教育委員会

〒698-8650 益田市常盤町 1 番 1 号

Tel 0856 - 31 - 0441 Fax 0856 - 24 - 1380

<http://www.city.masuda.lg.jp/>
